


頂点を目指し、幅広いジャンルから

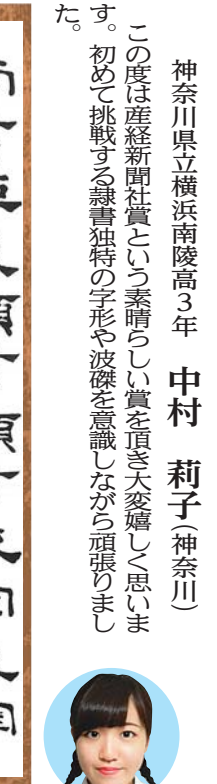
産経ジュニア書道コンクールは全国の幼・小・中・高校生を対象に、書写、書道の普及・発展を目的に開催しています。この書道展を通じて青少年の皆さんが日本の伝統文化に触れ、親しむことで「健全な心」を養ってほしいと願っております。

平成元年(1989年)に第1回全国書初め展として始まった「産経ジュニア書道コンクール」は今回で28回目を迎えました。幼稚園生から高校生まで日本全国、海外からご応募いただいた作品は9000点の大会を超えました。6月27日(火)に厳正な審査会を行い、中学生以下の部は文部科学大臣賞に始まる特別賞から佳作まで、高校生の部は、産経新聞社賞ほかの特別賞から入選までが決定しました。
 この産経新聞ジュニア書道コンクール特別版では、A部門(中学生以下：半切1/4、高校生：半切)、B部門(半紙)ごとの特別賞の作品、氏名、中学生以下の推薦、特選受賞者、高校生の秀逸受賞者の氏名を掲載します。平成30年のジュニア展の募集要項は11月にできる予定です。公式サイト(www.sankei-shokai.jp)、事務局(☎03・3275・8902)などでご確認のうえ、ふるってご参加下さい。


原本をよく消化した臨書作品。一面一画丁寧に落書きして書き進めていく様子が伝わってきます。今後一層のレベルアップを期待しています。
 (岡本杏華)

青森県立五所川原高3年 松江 寿香(青森)
 昨年からはじめた篆書作品で部門最高賞の産経新聞社賞を頂き、大変嬉しく思います。臨書を中心に学んだ高校三年間の経験を大切に、書道を一歩の進めたいと思います。


山梨県立桃花台学園2年 日原 彩乃(山梨)
 この度は名誉ある賞をいただきありがとうございます。大切な人の出会いに感謝し、気持ちのままに書きました。これからも書道を通じて自分を表現していきたいと思います。


神奈川県立横浜南陵高3年 中村 莉子(神奈川)
 この度は産経新聞社賞という素晴らしい賞を頂き大変嬉しく思います。初めて挑戦する篆書独特の字形や波線を意識しながら頑張りました。


平安時代を代表する超一級品。散らし書の基本となるものである。原帖は変化が少なく、臨書は単純に臨易いが、筆圧の変化、連綿、気脈の貫通、行の間合をよく捉えて空間を上手に生かしている。
 (高橋照弘)

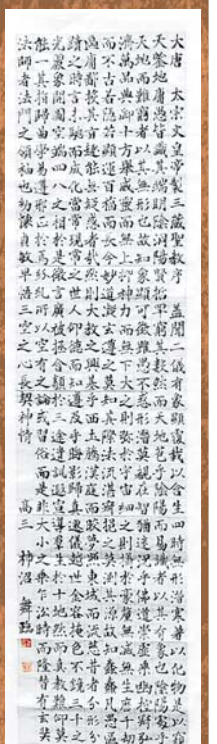
長野日本大学高3年 大谷 奈々(長野)
 この度は名誉ある賞を頂き光栄に思います。仮名の美しい線質を表現することに大変苦労しましたが、楽しく制作に取り組みができました。満足しています。


高校生 A部門

高校生 B部門

産経国際書会理事長賞
 東北学院榴ヶ岡高1年 佐藤 桃(宮城)
 高校に入り初めて臨書に挑戦し、このような素晴らしい賞を頂くことができて嬉しいです。これからも先生に感謝し、書道を通じて自分を表現していきたいと思います。


広島新庄高2年 河村 光太郎(広島)
 今回、このような素晴らしい賞をいただき光栄に思っております。この賞を励みに、しかし慢心することなく、これからも先生の指導のもと、書に努めていきます。


専修大学附属高3年 柿沼 舞(神奈川)
 作品を描き上げるのは大変でしたが、このような名誉ある賞を頂けて誠に光栄です。ご指導下さった先生に感謝すると共に、この経験を励みに今後とも一層精進して参ります。


産経国際書会理事長賞
 静岡県立浜松南高2年 松村 彩(静岡)
 この度は、素晴らしい賞をいただき大変うれしく思います。部活と書道の両立は大変でしたが、楽しく「作品賞」することができました。これからも努力していきます。




昨年の第33回産経国際書展のテープカット

第34回産経国際書展と同時開催
 産経ジュニア書道コンクールは、今年から、第34回産経国際書展(産経国際書会、産経新聞社主催)と同時開催することになりました。
 同展は、Clean=清潔、Clear=明朗、Creative=創造、Character=品格の4Cを基本理念に掲げ、書芸術の国際交流を通じて世界各国との友好親善を深め、世界平和に寄与するとともに、書技、創作活動の一層の向上、発展に期することを旨とし、自由闊達な雰囲気の中、若手から役員まで互いに厳しく切磋琢磨しながら成長を続けている日本を代表

する公募展です。
 今年も、高円宮賞、内閣総理大臣賞をはじめとする特別賞から、特選、秀作、入選に至るまで個性的で素晴らしい作品が並びました。また、中山秀征さん、松村雄基さん、藤田三保子さん、岡部まりさん、という書道に造詣の深い著名人の方も特別出品されています。
 この産経ジュニア書道特別新聞を産経国際書展の受付で提示すると、展覧会を無料で観覧することができます。ぜひ日本の最高峰の作品をご覧ください。
 その中で、U23部門は、高校1年生から23歳以下までの若手書家を対象とした部門で、高校生の皆さんと同世代から少し上の世代の優秀作品が並んでいます。産

経国際書展の募集要項に記載されていますが、今年からジュニアコンクールの高校生A部門(半切)出品者については、U23部門の出品料(6000円)を1点無料にしています。この特典を使って、多くの高校生がU23部門にチャレンジし、見事入賞を果たされています。日本を代表する公募展も、ごく身近なところにあるのです。
 書の道は、自己の今の姿を冷静にみつめ、常により高みをめざし精進を続けることで、さらなる境地が見えてきます。この優遇措置は来年以降も続けていきますので、産経ジュニア書道コンクールとともに、産経国際書展U23部門にもぜひチャレンジしてください。
 産経国際書会

産経国際書展は、東京都美術館ロビー階、1階で開催中です。このジュニア特別新聞を入口で提示すると、無料で入場できます。

衣類を寄付して“ふく”の輪を広げよう

東京サンケイビルで衣類の回収イベント開催中

ご家庭にまだ十分に着られる衣類は眠っていませんか?ふくのわプロジェクトとは、皆様に寄付していただいた衣類を、リユース専門業者に買い取ってもらい、その収益金でパラスポーツ(障がい者スポーツ)を応援しよう!という活動です。

恒例となった大手町での衣類の回収を、8月4日(金)まで開催中。会場となる東京サンケイビルの開館時間帯ならいつでも衣類回収ボックスにご投入いただけます。期間中、月・水・金の11時半～13時は富士紡HDの協力でチャリティーバーゲンも開催します♪

期間 7月26日(水)から8月4日(金)
 時間 7:00～23:30(※最終日は17時終了)
 場所 東京都千代田区大手町1-7-2 東京サンケイビル 地下2階プロモコナーII(サンドイッチ屋さんの隣)
 回収対象 洗濯済みのまだ着られる衣類(穴あきやシミは不可)、ネクタイ、マフラー、スカーフ、ハンカチ、下着、手袋、帽子、和服、帯、バッグ、シューズ、タオルなど ※キャスター付バッグは不可

1年中受け付けています!

衣類を提携先倉庫に送ってください
 海外の中古マーケットで販売することを目的に、集まった衣類はすべてマレーシアへ送られます。送料は送り主の負担となりますが、男・女、年代、ブランドなど問いません。買い取り金額は自動的にふくのわプロジェクトへ寄付されます。

回収対象 まだ着られる衣類(スーツ、ドレス、Tシャツ、子供服も可)、ネクタイ、マフラー、スカーフ、手袋、帽子、和服、帯、下着、水着、毛布、シューズ、タオル、ハンカチ、カーテン、バッグ
 送り先 〒300-0726 茨城県稲敷市西代703
 ふくのわプロジェクト事務局 fukunowa-pj@sankei.co.jp
 TEL:070-4176-3700 担当 郡司

衣類回収の流れ
 寄付していただく衣類
 郵送
 リユース専門業者倉庫へ
 買い取り。船で輸送
 古着工場(チャリティ)
 各地の気候や文化にあわせて出荷
 世界各地中古衣料マーケット(マレーシア、バングラデシュなど)

大切な衣類、また誰かのために!

主催 産経新聞社 オフィシャルパートナー FUJIBO 問い合わせ先 ふくのわプロジェクト事務局 fukunowa-pj@sankei.co.jp ふくのわプロジェクト 検索